

## 編集後記

『ジェンダー研究』24号が完成した。今号は「パンデミックとジェンダー」を特集テーマとし、研究論文、研究ノート、現場・事例報告、そして資料紹介の枠を設けて公募にて論文を募った。結果、研究論文2本、研究ノート3本、現場・事例報告3本が厳格な審査を経て掲載となっている。この未曾有の危機の時代に生きていること、その危機にジェンダー研究がなしてきたこと、そしてジェンダー研究だからこそ成しうることが本特集には詰め込まれているように思う。また編集長のコンセプトをもとに、和田さん主導でエッジの効いた表紙作りも進行した。いつものことながら、特集コンセプトをこのような素敵な表紙として具現化して下さるデザイナーの塩飽さんに感謝申し上げたい。

今号の投稿論文数は最も多かった。よって、携わっていただいた査読者の数もこれまでで一番多く41名の学内外の研究者にご協力いただいている。ここでお一人お一人のお名前を挙げることはできないが、貴重なお時間を割いての先生方のご尽力に心より御礼申し上げます。掲載された論文5本はこうした学内外の査読者による厳格な審査を経て掲載可となった論文で、力作揃いである。残念ながら掲載がかなわなかった論文もあるが、査読コメント、またそれへの応答から私自身が多くを学ばせていただいた。

また、上述のように、今号はこれまでで最も多い数の投稿が寄せられたため、特集および投稿論文すべてを扱うことは私の能力の限界を超えていると判断したことから、仙波さんにヘルプを求め、途中から特集原稿の一部の作業を分担いただいた。忙しい中、快く引き受けてくれた仙波さんに感謝している。

ところでこの編集後記はいつも、すべての原稿をチェックし終えたのち、入稿直前に書く。今号もここまでこぎつけることが出来たのは、上述した方々や編集長、編集委員会委員の先生方、編集スタッフに加え、滝さん(会計)、梅田さん(送付先の管理)、稲垣さん(ポスター等広報)のおかげでもある。IGSスタッフの皆さんのご協力に感謝している。そして、特集、一般投稿論文の校閲を担当して下さった西澤千典さん、いつも様々な要望に応じて下さる能登印刷・遠藤さんにも御礼申し上げます。

平野恵子

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

『ジェンダー研究』24号は、私がこの編集事務局のスタッフとしてかかわるようになって4回の発行である。今号では、「パンデミックとジェンダー」という特集が生まれ、論文の他に研究ノートや現場・事例報告論文も公募することとなった。通常よりも多くの論文が集まり、編集事務局の論文担当の平野さんの負担が増えたため、今号では私も通常の書評編集に加え、はじめて特集の研究ノート、および、現場・事例報告論文の編集も担当することになった。自分が担当した研究ノート3本、現場・事例報告論文4本はどれも興味深く、コロ

ナ禍、何が起きているのかを考えさせられるものばかりだった。また、ジェンダー関連の研究に取り組む人に様々な示唆を与えそうな11本の最新の書籍の書評も紹介できた。

研究ノート、現場・事例報告論文はその分野を専門とする教員や研究者に閲読審査を依頼し、忙しい中、審査を快諾していただいたことに心から御礼申し上げたい。また、書評用の書籍選定や評者候補の方々の紹介等では、『ジェンダー研究』編集委員会の委員をはじめ、お茶の水女子大学の学内外の様々な分野を専門とされている教員や研究者にも支援を賜った。こうした多くの方の協力に心から感謝している。またお忙しい中、書評の執筆を快く承諾してくださった具裕珍さん、林美子さん、児玉谷レミさん、小勝禮子さん、小川真理子さん、大野恵理さん、佐藤智美さん、徐阿貴さん、高橋由美さん、田間泰子さん、山根純佳さん、(あいうえお順)にも御礼申しあげたい。

『ジェンダー研究』24号も質の高い論文や書評で構成され、充実した号になったと自負している。今号も多くの方にお読みいただき、読者の研究の中で何かの形で活かされることを願ってやまない。そして発行に向けて共に作業をすすめた申キヨン編集委員長、編集事務局の平野恵子さん、校閲の和田容子さんと西澤千典さんにも感謝を述べたい。

仙波由加里

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

今号の特集「パンデミックとジェンダー」に相応しい表紙デザインとはどんなものか?編集実務会議では議論を重ね、次のようなコンセプトに至りました。「パンデミックを契機に、私たちは岐路に立っている。このあと世界は、誰もがケアされ生きる権利が尊重される包摂の世界になるのか、それとは真逆の悲劇的な結末を迎えるのか。安易に絶望に陥らず、いつか一筋の光明を見出す希望を携えて、ジェンダーの視点から世界を研究する——というイメージにしたい」。この要望をデザイナーの塩飽晴海さんに伝え、出来上がったのが今号の表紙です。鮮烈でありながら美しく洗練されたデザインにしてくださいました塩飽さんに、お礼を申し上げます。

編集実務スタッフとして進行補佐と書評校閲を担当しました。スタッフの一員としていつも快く迎えて下さる申編集長、編集局の平野さん、仙波さんに、心から感謝申し上げます。

和田容子

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 アカデミック・アシスタント)